

「どこに就職するか？」ではなく 「どう生きるか？」

熱い、熱い、大阪大学のキャリア支援に迫る

阪大生は学部卒業後、半数は大学院に進学し、半数は就職します。大学には研究者としての人生を歩んできた先輩方は数多くいますが、就職を考え悩む学生に対し、私たちは適切にアドバイスできるでしょうか？

就職活動はとかく企業の突飛な面接試験や、その対策としての小手先のノウハウが持て囃されがちですが、大阪大学のキャリア支援は他大学の就職支援とは一線を画しています。今では、現役阪大生に加え、一度社会に出て転職を考える卒業生や、他大学の学生も噂を聞きつけて相談があるほど。

今回は、若者たちの悩みに向き合う阪大のキャリア支援の取組について紹介します。



進路選択は「自分はどんな人間か？」を見つめるチャンス

担当者のひとり、学生・キャリア支援課の岡田行弘さんは、キャリアカウンセラーの資格を自ら取得し、他大学の就職支援の担当者や、企業の人事担当者との繋がりを通じて、その時々々の阪大生のニーズに添って柔軟に企画を実施し、進路で悩む阪大生たちに真正面から向き合っています。「大阪大学のキャリア支援で私たちが最も大事だと考えているのは、『働くことの意義』や『どう生きるか？』を考える機会として進路選択・就職活動をとらえてもらうことです」と岡田さん。



大阪大学公式マスコット「ワニ博士」(リクルートスーツバージョン)

些末な点で悩まないように。ノウハウはおまけ

「未知の状況を迎えると、人は不安になります。就職活動は学生にとって未知の状況なので、学生が不安を覚えるのも当然のことです。模擬面接の中でノウハウを伝えることもありますが、それは些末な点で悩まないようにするためです。ノックの回数を気にする人もいますが、それは本質ではないんです」

岡田さんたちは、様々な種類のセミナーを企画し、学生が「自分はどんな人間なのか？」を考えられるように、「いかに学生にフィードバックするか」に注力しているという。

「当然のことながら学生たちの歩んできた道や価値観が異なるため、学生ひとりひとりとじっくり向き合わなければ、その学生に響くアドバイスはできません。どう声をかけるのがベストなのか、非常に難しいですね。若者たちと一緒に悩み、もがいている……そんな毎日です」と笑う。



年間約3,000人。悩む学生に「複数の相談先があるよ」

セミナー等の企画だけでなく、大阪大学では進路に関する相談体制も充実しています。

大阪大学には、キャンパスライフ支援センターのキャリア支援ユニットに専門の資格を有するキャリアアドバイザーが在籍し、吹田、豊中、箕面の各キャンパスで相談を受け付けています。H27年度の利用者は延べ3,135名。Webで予約することができ、毎日、朝から相談対応を行っています。何かに悩む学生がいたら、自身の部局の相談室以外にも複数窓口があることを伝えてあげてください。

また、全学のキャリア教育という面では、キャリアの歴史や理論、ワークキャリア、ライフキャリアといった考え方を学ぶ学部生向けの授業「現代キャリアデザイン論」、大学院生向けの授業「現代キャリアデザイン特論」も開講しています。



阪大生のニーズから企画はうまれる

「キャリア100人会議」、「人事が就活!」、「やりたいことが見つからないあなたへ」など、目を引く企画タイトルが並びます。例えば、「キャリア100人会議」では、学生がグループになって人事担当者の役割を担い、複数用意された架空の試験者情報の中から自身の会社に適した人材は誰かを考えます。ユニークなのは、複数の企業から実際の人事担当者呼び、実際の人事担当者の視点と、自分たちの視点のギャップを知ること、自らの考え方を見直すきっかけにすることです。

この他にも、「留学生のための就職活動セミナー」、「模擬面接」、また通常の模擬面接に加えて、学生からの要望に応じて実現した圧迫面接版などもあり、多種多様なラインナップが吹田、豊中、箕面の各キャンパスで開催されています。



詳しくはWebをチェック! ▶▶▶ 大阪大学 キャリア支援 検索